

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



12月号 発行 平成27年12月24日

いわき地域特定家畜伝染病 防疫演習を開催しました！

11月19日(木)、いわき市立南部アリーナにおいて、防疫演習を開催しました。

この演習は、高病原性鳥インフルエンザ等の発生の際、迅速かつ的確なまん延防止措置を講じるため、関係機関の連携による初動防疫体制の強化と発生時の現地防疫作業等の確認を目的としたものです。

午前中は、いわき農林事務所といわき家畜保健衛生所から伝染病の動向や発生時の初動防疫概要について説明を行い、午後の演習では、いわき市、関係団体、警察署、県関係機関などの職員51名が参加し、地方対策本部スタッフの集合施設における支援業務を確認しました。併せて、防疫作業員の防護服着脱や捕鳥等の防疫作業、消毒ポイントにおける車両誘導・消毒作業といった実際の防疫作業について体験し、発生時の対応等を確認しました。



(防疫作業員の検温・血圧測定)



(ケージからの鶏の取り出し作業)
(農業振興普及部)

いわき菌床椎茸組合の 新工場火入れ式が行われました！

11月19日(木)、いわき市勿来町において、農事組合法人いわき菌床椎茸組合(以下「菌床組合」)勿来関田工場の竣工にあたり、安全を祈願する火入れ式が執り行われました。

式には菌床組合の組合員のほか、関係者約60名が出席し、菌床組合の渡部代表理事らが菌床の殺菌釜の起動ボタンを押して、新たな菌床づくりがスタートしました。

今回完成した勿来関田工場は、広葉樹のおが粉を主原料にした培地をブロック状に固め、しいたけの菌を植え付けた菌床を製造する施設で、これまで生産を行ってきた渡辺町にある施設の約3倍の菌床を製造することが可能になります。

新たに製造された菌床からは、来年3月頃にしいたけが発生し出荷される見込みであり、県内の生しいたけ生産量の大幅な増加が期待されます。

また、火入れ式の後に行われた施設報告会では、渡部代表理事から「これからは、東洋一、世界一を目指す」との力強い決意が述べられました。



(菌床殺菌釜の起動ボタンを押す渡部代表理事)



(新しい培養施設)
(森林林業部)

11月28日（土）、いわきワシントンホテル椿山荘において、第40回福島県児童・生徒木工工作コンクール表彰式が開催されました。

このコンクールは、福島県木材青壮年協会、福島民報社及び福島県木材協同組合連合会が主催となり、木材を使用した作品作りを通じて、未来を担う子どもたちに木材の香り・色・肌触り等の木の持つ良さを実感してもらい、木材利用の推進につなげることを目的として、毎年開催されています。

今年は、県内21校の児童が作成した613点の作品が出展され、表彰式では最優秀賞及び優秀賞に選ばれた14名の児童に、賞状と記念品が授与されました。

いわき市からは、勿来第一小学校6年生の高野瞳子さんの作品が最優秀賞にあたる県知事賞を受賞したほか、多数の作品が入賞作品に選ばれました。

上位入賞した作品は、来年2月に開催される全国児童・生徒木工工作コンクールに出品されます。



(勿来第一小学校 高野瞳子さんの作品
「私のまるい木のおうち」)
(森林林業部)

平成27年度地域特産品創出事業 第1回クラスター分科会

11月11日（水）、県いわき合同庁舎において、「平成27年度地域特産品創出事業 第1回クラスター分科会」を開催しました。

当該事業は、いわき地域の豊かな農産資源を生かし、地域の力を発揮しながら1次・2次・3次産業が様々な形で融合した新たな地域産業を創出し、地域の活性化を図るため、“地域ならではの”のコンセプトのもと、新たなパンや製菓の開発・販売を目的としています。

今回は、市内の農業者、製造・販売業者、いわき農林事務所など15名が参加し、パンや製菓の新商品開発のための意見交換や原材料の試食等を行いました。

今後は、製造・販売業者等を連携を取りながら新商品の開発を進めてまいります。



(分科会の様子)
(企画部)

11月30日（月）、いわき市営芝山牧野において、閉牧式が行われ、畜産農家やいわき市、いわき農林事務所が出席しました。

今年は5月15日（金）に開牧となり、約6か月に渡って放牧されました。

昨年から実施されている放射性物質吸収抑制対策により、昨年の1牧区7.4haから、今年は県のモニタリング検査を受けて新たに5牧区（25ha）が放牧可能となりました。

昨年は試験的に実施したため、10頭の放牧に留まりましたが、今年は市内だけでなく、市外からも放牧を希望する方がおり、多い時期は24頭が放牧されていました。放牧面積が増えたことで、畜産農家も多くの牛を放牧することができ、健康増進につながると喜んでいました。

来年度は、残りの牧区（18ha）と川前地区の荻牧野（33ha）の放牧利用再開に向けて取組を進める予定です。



(閉牧式の様子)
(農業振興普及部)



建設工事安全推進協議会 安全パトロールを実施しました！

11月17日（火）、いわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会主催による工事現場安全パトロールが行われ、いわき労働基準監督署や県関係機関、建設会社等の関係者36名が参加しました。

会長の松本いわき農林事務所長より出発式の挨拶後、2班に分かれ、それぞれ3箇所の子現場の現場のパトロールを行いました。

パトロール終了後は、現場ごとの指摘事項などをとりまとめ、発表した後、それを受けて労働基準監督署の空閑（くが）安全衛生課長と吉田産業安全専門官から講評をいただきました。

現場における改善点は、「施工地付近への吹流しの設置」、「安全掲示板への作業主任者職務内容の表示」、「現場事務所の分電盤の施錠」などが挙げられました。

また、講評の中では「現場事務所と施工地が離れている場合、現場に休憩場所を設置する」、「作業員の安全確保のため通路の確保を図る」など参考となるものが多くあり、参加者はさらなる安全衛生管理の徹底と労働災害の未然防止に向けた意識向上を図りました。



（安全掲示板を確認する参加者）



（現場確認状況とりまとめの様子）
（総務部）



平成27年度福島県 青年・女性漁業者交流大会

12月11日（金）、いわき市中央台公民館において、平成27年度福島県青年・女性漁業者交流大会が開催されました。

本大会は、各漁業協同組合の青壮年部や女性部が日頃取り組んでいる各種活動について発表し、漁業技術の向上や地域の活性化に関する知識を共有することによって、活力ある漁業地域の形成と振興を図ることを目的としています。

今年度は、①「採鮑漁業の復興に向けて」、②「漁を休むとどうなるか？～操業自粛がもたらす資源管理効果～」、③「未来の久之浜地区の漁業のために～担い手研修と地域復興イベントの取組～」、④「浜で育む後継者～僕と甥と時々兄貴、そして未来へ～」の4課題で発表が行われました。

大会は、審査形式で行われ、③のいわき市漁業協同組合青壮年部久之浜支部が行った発表が最優秀賞となり、県から知事賞が授与されました。

受賞した久之浜支部は、平成28年3月に東京で開催される「第21回全国青年・女性漁業者交流大会」へ出場することが決定しました。



（いわき市漁業協同組合青壮年部久之浜支部の発表）



（各受賞者）
（水産事務所）

**草野小「田んぼの学校」
収穫祭（成果発表）を開催しました！**

11月14日（土）、平下神谷地区において、いわき市立草野小学校と連携した「田んぼの学校」で、今年度の活動の締めくくりとなる「収穫祭（成果発表）」を開催しました。

「田んぼの学校」は、県の「ふくしまの農育推進事業」により、地域の未来を担う子どもたちが、『農業・農村地域の大切さ』や『環境の大切さ』、『食・命の大切さ』について理解し、豊かな感性を育むことなどを目的とした体験型学習です。

収穫祭は、毎年公開授業（子ども秋祭り）と合わせて開催されており、5年生は「田んぼの学校」の成果発表と餅つきを行いました。成果発表では、この1年間の活動を振り返り、地域の方々に前に学習したことをポスターにまとめ、班ごとに発表しました。

その後行われた餅つきでは、同校で25年間に渡り農業体験学習に取り組んでいる富岡正治（まさはる）さんをはじめとした地元協力農家の方々や保護者の方々の協力もいただきながら、児童たちは元気いっぱいいきねと臼で餅をつきました。出来上がった餅は、全校児童でおいしくいただきました。

来年度においても、同校にて「田んぼの学校」を開催し、地域の将来を担う子どもたちの環境学習の支援を行っていくこととしています。



（成果発表でお米に関するクイズを出題）



（よいしょ！どっこいしょ！）
（農村整備部）

**いわき地方の農林水産物
モニタリング検査結果**

農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の11月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果（表1）をお知らせします。

（表1）農林畜産物の検査結果（11月末現在）

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
	3品目（※1）			
10品目	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	13品目
32検体	8検体	3検体	0検体	43検体

※1:カボス、小豆、秋そば

検査した13品目43検体のうち、10品目32検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表2）のとおりです。

（表2）1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

キュウリ（施設）3、トマト（施設）2、シュンギク 1、ミニトマト（施設）2、ギンナン 2、菌床しいたけ（施設）5、菌床なめこ（施設）1、大豆 7、牛肉 4、原乳 5

なお、カボス、小豆、秋そばについては、それぞれ1検体に100ベクレル/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は（表3）のとおりです。

（表3）基準値内で検出された品目と検体数

品名	検体数	内訳	
		100Bq以下	検出限界値以下
カボス	1	1 (3.0Bq/kg)	0
小豆	1	1 (4.5Bq/kg)	6
秋そば	1	1 (4.5Bq/kg)	2

11月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表4）のとおりです。

（表4）出荷制限及び出荷自粛品目（11月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限 （7品目）	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらのめ（野生のものに限る）
	きのこ 畜産物	原木なめこ（露地）、野生きのこ —
出荷自粛 （1品目）	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

《大豆・小豆・そばの穀類は、出荷・販売前に必ず放射性物質モニタリング検査の結果を確認しましょう！》

大豆、小豆、そばなどの穀類は、県による放射性物質モニタリング検査を産年ごと旧市町村ごとに実施しており、検査の結果、出荷可能と判断されて初めて販売できます。

詳しくは、福島県水田畑作課のホームページで確認するか、当所までお問合せください。

○水田畑作課ホームページ
平成27年産穀類のモニタリング検査の旧市町村別進捗状況
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035b/daishinsai-kokurui-monitoring-shinchoku-27.html>

○問い合わせ先
いわき農林事務所農業振興普及部
電話:0246-24-6161

平成27年産米の全袋検査結果

平成27年産米の全袋検査は、11月末までの検査点数505,003点のうち、99.99%の504,932点、932点が測定機器の測定下限値未満、71点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありません。

玄米（平成27年産）検査状況（11月末現在）

測定値区分 (単位: Bq/kg)	測定下限値 未満(<25)	25 ~ 50	51 ~ 75	76 ~ 100	100 以上	計
検査点数 (点)	504,932	70	1	—	—	505,003
割合 (%)	99.99	0.01	0.00	—	—	100.00

(12月1日付け 水田畑作課HPにより確認)

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成27年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(企画部)



海産魚介類の検査結果

福島県沖で採取された海産魚介類への放射能の影響は、時間の経過とともに着実に低下しています。

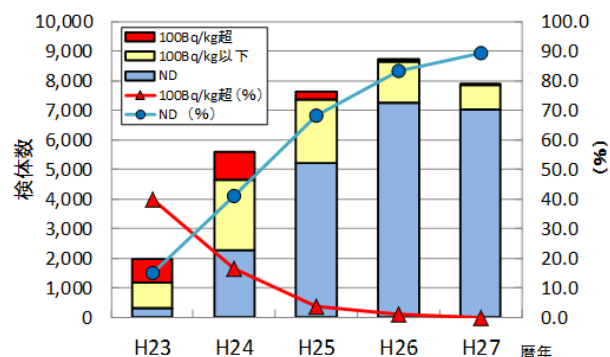
平成27年1~11月までに放射性セシウムの食品としての基準値100Bq/kgを超えたものは4検体で、全体の0.1%でした。

なお、3月7日以降に採取された海産魚介類で基準値の100Bq/kgを超えたものはありませんでした。

モニタリング検査結果により安全が確認された魚介類を対象に試験操業が行われています。平成27年12月に新たにフグ類4種が追加となり、計72種が対象種となっています。

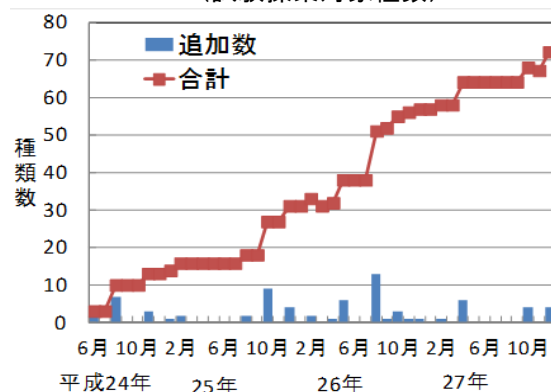
(平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合)

年		100Bq/kg 超	100Bq/kg 以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	843	7,011	7,858
	割合(%)	0.1	10.7	89.2	100.0
計	検体数	2,065	7,642	22,066	31,773
	割合(%)	6.5	24.1	69.4	100.0



(※採取年月日で集計)

(試験操業対象種数)



(水産事務所)

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

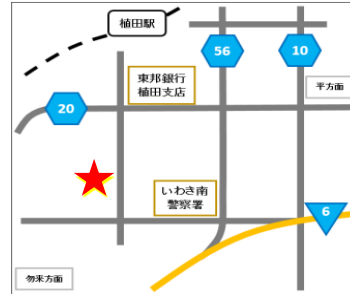
地産地消推進日(1月は8日(金))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。
 なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。
 また、営業日(メニューの実施日)については、事前にご確認ください。

○ 北の屋そばや(植田町本町1-10-1)

- ・地産地消メニュー:天なべ定食、鶏ごぼううどん、カレーうどん、天ぷらごはん
- ・説明:いわきの野菜をできるだけ多く使用しています。
- ・店舗の電話番号:0246-62-4752



(天なべ定食)



○ 惣菜&レストラン吉福(平字東町5-1)

- ・地産地消メニュー:惣菜
- ・説明:主にいわき産の人参、大根等を使用した野菜ごろごろ煮物を始め、約40種類の惣菜にいわき産野菜をできるだけ多く使用しています。
- ・店舗からの情報:毎月第1・第3土曜日に朝市・フリーマーケットを行います。また、第1土曜日は10時30分からシルバー世代を対象にした認知症に関する相談も行います。興味がある方や参加されたい方は、吉福までご連絡ください。
- ・店舗の電話番号:0246-22-0886



(野菜ごろごろ煮物)

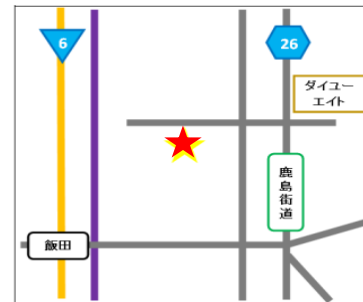


○ エル・トマ(鹿島町久保2-2-8)

- ・地産地消メニュー:市場直送 鮮魚のグリル
- ・説明:常磐沖で獲れたメカジキを使ってメカジキのグリル エスカルゴソースを提供します(市場直送のため、地産地消推進日前の水揚げ状況によっては魚種が異なる場合があります。)
- ・店舗の電話番号:0246-58-5969



(メカジキのグリル エスカルゴソース)



いわきの情報をお知らせします！

福島県いわき農林事務所

いわき市平字梅本15番地(福島県いわき合同庁舎3F)
TEL.0246-24-6197 FAX.0246-24-6196

mail kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/

Q いわき農林事務所

検索

今が旬の果実
『ユズ』を
ご紹介します！

柚子

ユズの栽培状況

ユズはミカン科の常緑樹の果実で、柑橘類の中では耐寒性が高いため、東北地方でも栽培が行われています。福島県におけるユズの主要産地は、矢祭町や福島市、塙町があり、町の特産品にしようとする取組も行われています。いわき市では、渡辺町で多く栽培されていますが、市内全域で農家の庭先や畑の一角等で育てられています。

8～9月になると緑色のユズが出回り、10～12月には成熟が進み黄色のユズが収穫されます。

また、いわき市産のユズは、平成27年1月29日に国の出荷制限が解除されており、直売所等に並んでいます。

●寒い季節の救世主

ユズは、カリウムやビタミンC等のほか、クエン酸が含まれているため、疲労回復や風邪予防によいとされています。

また、お風呂に入れてユズ湯にすると体が温まる効果もあるため、寒い冬は、ユズ湯につかって元気に過ごしましょう！



いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報

- (1) モニタリング情報検索
- (2) 出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース 検索